

吉野川水系河川水辺の国勢調査

(魚類調査)

平成 18 年度 報告書 概要版

国土交通省四国地方整備局

徳島河川国道事務所

目 次

I. 平成 18 年度の現地調査概要	
1. 調査項目	1
2. 調査時期	3
3. 調査場所	3
II. 平成 18 年度の現地調査結果	
1. 現地調査による確認種	5
2. 重要種・外来種	7
III. 経年変化の整理結果	
1. 確認種の経年比較	8
2. 重要種の経年変化	11
巻末資料	
魚類 写真票（重要種・外来種）	

I. 平成 18 年度の現地調査概要

1. 調査項目

調査地区の特徴、生息可能性のある魚類の特徴をふまえ、下記の 1)～6) に示す調査を適宜組み合わせて捕獲・確認をした。

1) 投網

12mm 及び 18mm の 2 種類の目合のものを用い、川岸や流れの中を歩きながら打つ「徒打ち」を基本とした。また、水深の深い場所等では、船上からの捕獲も適宜行った。



投網実施状況

2) タモ網

河岸植物帯、沈水植物帯、河床の石の下、砂・泥に潜っている比較的小さな魚類の捕獲に有効である。使用にあたっては、タモ網を河床及び河岸に対して隙間がないように固定して、上流側から足で踏みながら追い込むようにした。



タモ網実施状況

3) 刺網

遊泳魚の捕獲に効果的であり、特に投網の捕獲効率の悪い水深の深い場所等でも効果的である。



刺網実施状況

4) はえなわ・どう

ウナギ・ナマズ等の夜行性の肉食魚の捕獲に適している。日没後に仕掛け、明け方に回収した。



はえなわ・どう実施状況

5) 潜水による捕獲

透明度の高い、水のきれいな場所における調査に適している。記録は、玉網や手網等により捕獲した魚類のみを対象とした。

6) 小型地曳網

汽水域における底生魚や稚魚の捕獲に適している。捕獲は、可能な限り砂質の場所で実施した。網口幅 1.5m、袖網長 4m 程度の小型の網を用いた。



小型地曳網実施状況

2. 調査時期

吉野川水系の吉野川・旧吉野川において、夏季、秋季の2回の現地調査を実施した。具体的な調査実施時期及び時期の選定根拠を表 I. 2. 1 に示した。

表 I. 2. 1 調査実施時期及び選定根拠 (H18 魚類調査)

季節	時期	選定根拠	調査実施日
夏	8月	夏季は梅雨明け後の比較的河川の流が安定した時期であり、また、水温も高く、魚類の活動も活発で捕獲が容易であり、生息の確認に適していると考えられる。	平成18年8月7日～11日
秋	10月	多くの淡水魚の移動が確認でき、また河口に入る汽水魚の種類も多くなると考えられる。水温が低下し、より魚類の活動が鈍化する前の時期として10月初旬に設定する。	平成18年10月2日～6日

3. 調査場所

調査地区は、吉野川・旧吉野川における直轄管理区間内で設定し、調査地区の詳細を表 I. 3. 1 に、調査地区位置図を図 I. 3. 1 に示した。

表 I. 3. 1 調査地区 (H18 魚類調査)

河川名	地区番号	距離 (km)	地区名	調査地区の選定根拠	調査地区の特徴
吉野川	吉徳1	0.4km ～ 7.4km	田宮	本調査地区は、河口に近い汽水域に位置している。特に、砂泥質の底質の場所では、既往調査において干潟部で特有に生息する底生魚も確認される等、汽水・海水魚相の把握に適しており、吉野川河口部の魚類相の特徴把握に適している代表的な調査地区と評価できることから選定。	吉野川大橋下流の右岸側には広大な砂泥干潟が広がる一方で、左岸側は水深が深い。右岸側の水際にはヨシ群落、アイアシ群落などの塩沼地植生がまとってみられる。また、吉野川橋上流の左岸には干潮時に水路状、わんど状に泥質の干潟がみられ、右岸には鮎喰川が合流し、その下流にかけて砂泥質の干潟が広がる。
	吉徳2	17.7km ～ 19.2km	高瀬橋	本調査地区は、第十堰の湛水域と緩やかな流れの瀬や淵がある地区であり、右岸側には水制工が設置されているなど、多様な河川環境を有している。特に、既往調査において止水～緩やかな流れの環境下に特徴的にみられる魚類も確認されており、吉野川中流部1の魚類相の特徴把握に適している代表的な調査地区と評価できることから選定。	第十堰上流の湛水域上流側であり、比較的緩やかな流れとなっており、アユの産卵場や釣り場となっている瀬がある。水際には河原砂礫地～ソルヨシ群落・ヤナギ林がみられる。河床材料は2～100mm程度の円礫が主体であり、浮き石状態である。
	吉徳3	56.4km ～ 57.4km	青石橋	本調査地区は、両岸とも山地が迫っている河道部に位置する。幅の広い早瀬や淵が形成されており、支川からの流入もある等、多様な河川環境を有している。特に、既往調査においてオイカワ、カワムツ、カワヨシノボリ等の中～上流域を主要な生息の場としている魚類も確認されているほか、アユの好漁場となっており、吉野川中流部2の魚類相の特徴把握に適している代表的な調査地区と評価できることから選定。	幅の広い早瀬や淵があり、良好なアユの釣り場となっている。また、水害防備林として整備された広大な竹林がある。河床材料は100mm程度の円礫が主体であり、浮き石状態である。
旧吉野川	吉旧徳1	2.2km ～ 3.4km	大津橋	本調査地区は、旧吉野川河口堰下流の汽水域に位置し、旧吉野川～第十樋門～吉野川というルートでの魚類の遡上・遡下が知られている。本調査区では、旧吉野川の魚類相に加えて、既往調査において回遊性魚類も確認されており、旧吉野川河口部の魚類相の特徴把握に適している代表的な地点と評価できることから選定。	河口堰下流における汽水域の区間であり、干潮時には、一部で泥質・砂質の干潟が見られるが、流心部は一樣に深くなっている。両岸はコンクリート護岸であり、一部にヨシ原が広がっている。
	吉旧徳2	18.6km ～ 19.2km	大寺橋	本調査地区は、旧吉野川下流部の流れの緩やかな地区に位置し、沈水性植物、浮遊性植物が繁茂するほか、水際にはソルヨシ群落、ヤナギ類が帯状に生育している。特に、既往調査において湛水域の指標となるタナゴ類、フナ類も多数確認されており、旧吉野川下流部の魚類相の特徴把握に適している代表的な地点と評価できることから選定。	河口堰の湛水区間とその上流側に全体的に流れる緩やかな区間が続いており、ワンドも多く見られる。また、左岸側には、複数の支川が合流している。河岸にはソルヨシ群落、ヤナギ類などが繁茂している。水域は浮遊性・沈水性植物が多く繁茂している。

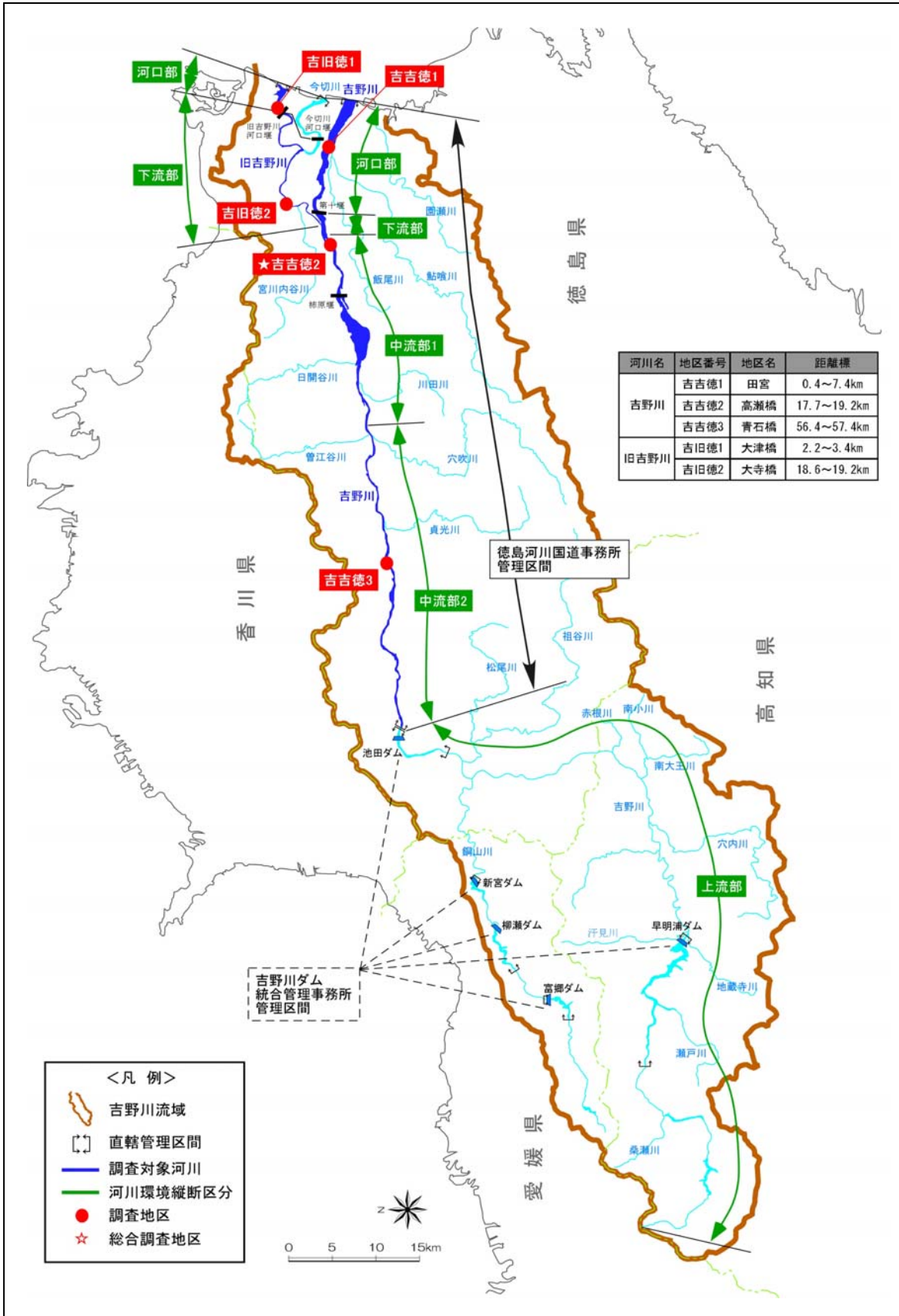


図 I.3.1 調査地区位置図 (H18 魚類調査)

II. 平成 18 年度の現地調査結果

1. 現地調査による確認種

今回の調査で、86 種の魚類を確認した。地区別の出現種数、個体数を表 II. 1. 1 に、主要種の出現状況を図 II. 1. 1 に、調査地区の環境との関わりを表 II. 1. 2 に示す。

表 II. 1. 1 地区別確認種数 (H18 魚類調査)

河川	調査地区番号	調査地区名	出現種数	出現個体数
吉野川	吉吉徳 1	田宮	40	904
	吉吉徳 2	高瀬橋	29	410
	吉吉徳 3	青石橋	19	386
旧吉野川	吉旧徳 1	大津橋	34	539
	吉旧徳 2	大寺橋	24	571
合 計			86	2,810

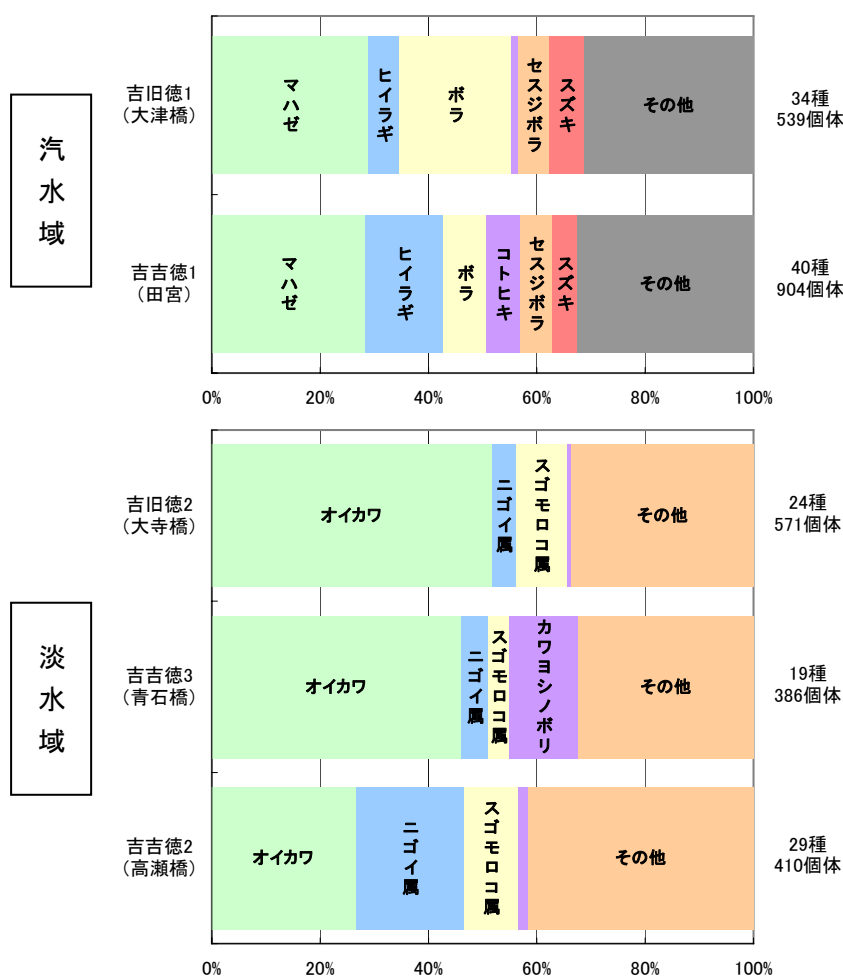


図 II. 1. 1 主要種の出現状況 (H18 魚類調査)

表Ⅱ.1.2 調査地区の環境との関わり (H18 魚類調査)

地区番号	地区名	調査地区の環境との関わり
吉吉徳 1	田宮	<p>泥質の強い場所ではアベハゼ、アカオビシマハゼなどが確認された。</p> <p>また、干潮時には本流部と隔絶しているが水位が上がると本流と連結する池状の水域では、夏、秋通じて26種もの魚類が確認された。両季ともマハゼが最も多く捕獲されたが、その他干潟性のハゼ類、クロホシマンジュウダイやオニカマス等南方性の種なども確認された。</p> <p>吉野川右岸の鮎喰川合流点付近では、マハゼ、ボラ類、ヒイラギが多く捕獲された。また、鮎喰川の流入により淡水の影響が他の箇所よりも強いと思われ、ウグイ等の純淡水魚やチブ等比較的淡水影響のある場所で見られる種なども確認された。</p> <p>河川公園の高水敷とヨシ原の中洲との間の水域では、潮位によって滞筋が拡大・縮小し、干潮時には泥深い干潟が広範囲に表れ、夏季はマハゼ、秋季はヒイラギ、マハゼ、セスジボラが多く捕獲された。</p>
吉吉徳 2	高瀬橋	<p>礫底の緩やかな流れの平瀬では、オイカワ、アユの遊泳魚の他、シマヨシノボリ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ等の底生のハゼ類が捕獲された。</p> <p>ヤナギ類に囲まれた砂泥質のワンド状の止水域では、夏季はオイカワ、スゴモロコ属 (<i>Squalidus</i> sp.) が多く捕獲されたが、秋季はタナゴ類、ゲンゴロウブナ等のフナ類が多く捕獲された。</p> <p>排水樋門に繋がり、水路状の浅い水域では、水際に抽水植物が繁茂し、ギギ、ナマズ等、緩流域から止水域を好む多くの種が確認された。</p> <p>調査範囲下流の大きな淵は水深が深く、水制付近にオイカワの群れがみられた。左岸側の水深の浅い場所でオイカワ等の稚魚が、底層にはカマツカ等がみられたが、個体密度は小さく、魚影はあまりみられなかった。</p> <p>砂州の中に形成された浅いたまりでは、沈水植物や浮葉植物が繁茂し、コイ・フナ類幼魚等の小型の種・個体が多く捕獲された。</p>
吉吉徳 3	青石橋	<p>青石橋上下流の淵では、水深の深い左岸水際部のコンクリートブロックの隙間に大小多数の魚類が溜まっている状況が観察された。底層付近にはギギ、コイ、ニゴイ等の大型個体も確認され、魚類の隠れ場所、生息場所となっている状況が窺えた。また、上流側で右岸側より細流が流入する付近のよみみでは、ドンコ等が捕獲された。逆に浅い左岸側では、水際のごく浅い場所にオイカワ等の稚魚が群れていたり、時折ウグイ、ニゴイ類等が通過する程度であった。</p> <p>流速の速い浮き石の早瀬では、オイカワ、アユ、ウグイ等の遊泳魚が主に捕獲された他、礫下、隙間においてはオオヨシノボリ、カワヨシノボリ等が捕獲された。</p> <p>早瀬上の緩流部では、他の箇所と同様オイカワ、ウグイが多く捕獲された他、水際部の浅瀬ではギギの幼魚、シマドジョウなどが捕獲された。</p> <p>左岸砂州内にある大きなたまりと、そこから流出する水路部では、ともに水際植生はほとんどみられず、礫底の非常に単調な環境であった。魚類は、主にオイカワが捕獲され、その他ウグイ、カワヨシノボリ等がわずかにみられるのみであった。</p>
吉旧徳 1	大津橋	<p>大津橋上流右岸では、干潮時にヨシ原や船着き場の周囲に泥質の干潟が出現し、水際の浅い水域ではボラ類、マハゼが多数捕獲された。その他、干潟前面の浅い水域において多種の汽水・海水魚が確認された。</p> <p>非常に水深の深い河川中央部では、はえなわ、刺網の実施により、スズハモ、アカエイ、キチヌ等の大型魚が捕獲された。</p> <p>河口堰下流の左岸側では、マハゼ、ボラ類が多く捕獲された他、ヨシ原の際でクロホシマンジュウダイ等、排水機場直下のタタキでヒイラギ、ウミタナゴ等が捕獲された。</p>
吉旧徳 2	大寺橋	<p>中洲状に点在するツルヨシ、ヤナギ等の群落と大寺橋との橋脚によって本流と隔てられた水域では、流れはあまり停滞しておらず、緩やかに流れており、水中には沈水植物も比較的多くみられる。ここでは、オイカワが最も多く捕獲されたが、ギンブナなど緩流～止水域を好む種も多く確認された。</p> <p>本流側に広く開口しているものの、流れがほぼ停滞した水域では、沈水植物が繁茂し、水際は抽水植物で厚く覆われている。4種のタナゴ類が確認され、その他オイカワ稚魚など緩流～止水環境を生育環境とする種が確認された。</p> <p>河道に点在するヤナギ群落により本流の流れとは隔てられ、比較的停滞した水域では、タナゴ類の他、ギンブナなど、緩流～止水環境を好む種が確認された。</p> <p>大坂谷川と黒谷川の流入部では、水際は抽水植物で覆われ、秋季には流入支川の流末部でアユが捕獲された。植物帯の傍では、フナ類、タナゴ類等が確認され、特に浅瀬の冠水した抽水植物の隙間では、浮出して間もないと思われるタナゴ類の稚魚が表層に多数確認できた。</p> <p>また、支川流末部の浅瀬で礫の散在する場所においては、カワヨシノボリやトウヨシノボリ (橙色型) も捕獲された。</p>

2. 重要種・外来種

表Ⅱ.2.1に、確認された重要種・外来種の一覧を示す。現地調査で確認された重要種は、徳島県RDBにおいて絶滅危惧Ⅰ類に指定されているエドハゼ、チクゼンハゼなど、23種であった。また、外来種（国外移入種）は、特定外来生物であるオオクチバス（ブラックバス）、ブルーギル、要注意生物リストに掲載されているタイリクバラタナゴ、カムルチーの計4種であった。

表Ⅱ.2.1 確認された重要種・外来種（H18魚類調査）

No.	目名	科名	種名	重要種				外来種
				①	②	③	④	
1	コイ目	コイ科	ヤリタナゴ				AN	
2			カネヒラ				DD	
3			シロヒレタビラ				DD	
4			イチモンジタナゴ			EN	DD	
5			タイリクバラタナゴ					要注意
6			ヌマムツ				AN	
7			タカハヤ				NT	
8			モツゴ				AN	
9			タモロコ				NT	
10			コウライモロコ				AN	
11				ドジョウ科	スジシマドジョウ中型種			
12	ナマズ目	アカザ科	アカザ			VU	VU	
13	サケ目	シラウオ科	シラウオ				VU	
14	ダツ目	メダカ科	メダカ			VU	VU	
15	ヨウジウオ目	ヨウジウオ科	ガンテンイシヨウジ				AN	
16	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル					特定
17			オオクチバス（ブラックバス）					特定
18		ハゼ科	カワアナゴ					NT
19			トビハゼ					VU
20			ヒモハゼ					NT
21			エドハゼ			EN		CR+EN
22			チクゼンハゼ			EN		CR+EN
23			マサゴハゼ					NT
24			スジハゼ（スジハゼA）					AN
25			ゴクラクハゼ					AN
26			トウヨシノボリ（縞鱒型）					AN
27			カムルチー					国外
合計				0	0	5	23	4
				23種				4種

注1) 重要種選定基準

- ①：「文化財保護法」（1950）における特別天然記念物、国・府・県・市・町指定天然記念物
 ②：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1993）における希少野生動植物種
 ③：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—4.汽水・淡水魚類」（環境省，2003）
 EX：絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群
 ④：「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック—」（徳島県，2001）
 EX：絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群、AN：留意

注2) 外来種カテゴリー

- 特 定—特定外来生物
 要注意—外来生物法の要注意外来生物リスト掲載種のうち、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物
 国 外—外来生物法の要注意外来生物リスト掲載種のうち、引き続き情報の集積に努める外来生物

Ⅲ. 経年変化の整理結果

1. 確認種の経年比較

既往の河川水辺の国勢調査結果との比較を行うにあたり、年度毎の調査地区の比較表を表Ⅲ. 1. 1 に示す。

第 1 回 (H3) ～第 3 回 (H13) については、一部若干の現地調査地点の変更はあったが、同様の地区数で実施されている。一方、第 4 回 (H18) では、吉野川本川の淡水域である阿波麻植大橋、穴吹橋、三好大橋及び今切川の淡水域である百石須の計 4 地区が統合され、吉野川本川 3 地区 (汽水域 1 地区、淡水域 2 地区)、旧吉野川 2 地区 (汽水域 1 地区、淡水域 1 地区) の計 5 地区となっている。この 5 地区については、前回調査と大きな相違はない。なお、調査回数・時期については、これまでの調査とほぼ同様である。

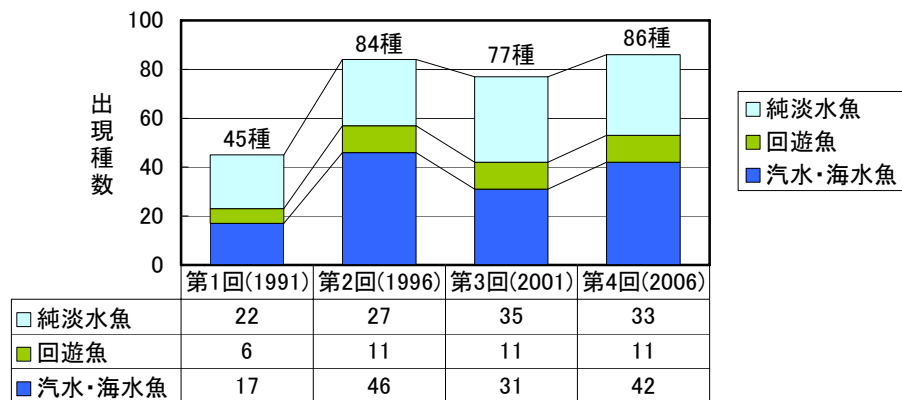
表Ⅲ. 1. 1 河川水辺の国勢調査における各年の魚類調査地区の比較

河川名	区分	地区名	第1回	第2回	第3回	第4回
			1991(H3)	1996(H8)	2001(H13)	2006(H18)
吉野川	汽水域	田 宮	○	○	○	○
	淡水域	高 瀬 橋	○	○	○	○
		阿波麻植大橋	○	○	○	—
		穴 吹 橋 ※ 1	○	○	○	—
		青 石 橋	○	○	○	○
		三 好 大 橋	○	○	○	—
今切川	淡水域	百 石 須	○	○	○	—
旧吉野川	汽水域	大 津 橋	○	○	○	○
	淡水域	大 寺 橋	○	○	○	○
調査地区数			9	9	9	5

※1 第1回、第2回は約2km上流の脇町潜水橋付近で実施している。

次に、調査地区別及び各年度毎の確認種数の比較を、表Ⅲ. 1. 2、図Ⅲ. 1. 1、図Ⅲ. 1. 2 に示す。

前回 (H13) と比較すると、確認種数は 77 種から 86 種と 9 種増加し、過去 4 回の調査で最も確認種数が多くなっている。汽水・海水魚の種数は、前回よりも 11 種増加しており、特にミナミイケカツオ、クロホシマンジュウダイ、オニカマス等の南方性の魚種が総確認種数の増加に寄与したものである。一方、純淡水魚は、前回よりも 2 種減少していますが、回遊魚の確認種数も前回から変化していない。



図Ⅲ.1.1 調査全体の確認種数経年変化（魚類）

調査地区別にみると、吉野川河口部の吉吉徳 1（田宮）では、第 2 回(H8)及び第 4 回(H18)の確認種数が多くなっているが、特に沿岸域を重要な生息場所とする海水魚については、天候、水温、潮位、塩分濃度等、様々な自然環境の変化によって水域を移動することが考えられ、確認種数がある程度変動することはやむを得ないと考える。なお、第 4 回(H18)の確認種数が前回より大きく増加しているのは、前項でも述べたとおり、ミナミイケカツオ、クロホシマンジュウダイ等の南方性の魚種が大きく関与していると思われる。

吉野川中流部の吉吉徳 2（高瀬橋）では、回を経るごとに確認種数が増加し、特に、第 2 回(H8)から第 3 回(H13)にかけて大きく増加している。高瀬橋地区は、本流部において水深が深くやや単調であるものの、周囲にはワンド・たまり等の止水環境が存在し、水際部はヤナギ類等の植物が冠水するなど、魚類の生息にとって多様な環境要素を内在していることから、確認種数が増加したものと推察される。また、回を経るごとに調査地区の情報も蓄積され、より効率的に確認されるようになったことも、確認種数が増加した要因と考えられる。

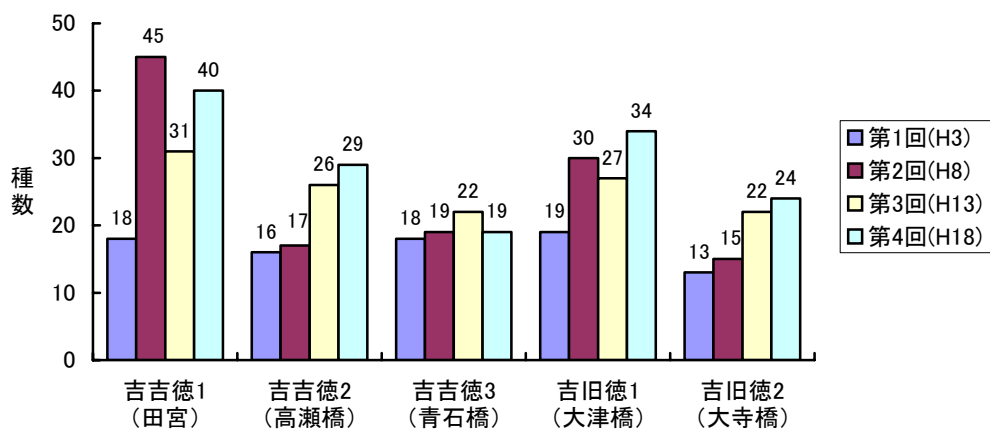
吉野川中流部の吉吉徳 3（青石橋）では、第 1 回(H3)から確認種数に大きな変化がなく推移している。下流の地区と比較すると河川の規模も小さく、下流域よりも容易に環境要素を多く満たした調査を実施することが可能と思われることから、確認種数の変動も小さいと考えられる。

旧吉野川の吉旧徳 1（大津橋）では、吉吉徳 1（田宮）と同様、第 1 回(H3)は確認種数が少ないが、第 2 回(H8)～第 4 回(H18)は著しい変化はなく推移している。

旧吉野川の吉旧徳 2（大寺橋）では、吉吉徳 2（高瀬橋）と同様に、回を経るごとに確認種数が増加し、また、第 2 回(H8)から第 3 回(H13)にかけて大きく増加していることから、これらの要因についても吉吉徳 2（高瀬橋）と同様であると推察する。

表Ⅲ.1.2 地区別確認種数経年変化（魚類）

河川名	地区番号	地区名	魚類			
			H3	H8	H13	H18
吉野川	吉吉徳1	田宮	18	45	31	40
	吉吉徳2	高瀬橋	16	17	26	29
	吉吉徳3	青石橋	18	19	22	19
旧吉野川	吉旧徳1	大津橋	19	30	27	34
	吉旧徳2	大寺橋	13	15	22	24
合計			45	84	77	86



図Ⅲ.1.2 地区別確認種数経年変化（魚類）

2. 重要種の経年変化

これまでの河川水辺の国勢調査で確認した重要種について、その生息状況をこれまでの河川水辺の国勢調査における確認状況および徳島県版レッドデータブックを中心に既往の知見等から評価し、表Ⅲ. 2. 1 に示す。

表Ⅲ. 2. 1(1) 重要種の確認状況と評価 (H18 魚類調査)

No.	種名	河川水辺の国勢調査				重要種の選定基準				評価
		H3	H8	H13	H18	①	②	③	④	
1	ヤリタナゴ	●	●	●	●				AN	第1回(1991)の調査から継続して確認しており、生息環境は比較的安定しているものと思われる。主に吉野川水系下流の緩流域に分布している。
2	カネヒラ	●		●	●				DD	吉野川水系下流域に分布し、生息数は比較的多いようである。生息場所の季節移動が大きいとされる。主に吉野川水系下流の緩流域に分布している。
3	シロヒレタビラ				●				DD	これまでの河川水辺の国勢調査では確認されていなかったが、その他の既往の調査において、旧吉野川、今切川を含む吉野川水系下流域で記録されている。
4	イチモンジタナゴ		●	●	●			EN	DD	特に旧吉野川周辺での生息数は多いようである。主に吉野川水系下流の緩流域に分布している。
5	ヌマムツ			●	●				AN	本流よりはその周辺の支川や水路などに多いとされている。本川部や上流へ分布を広げている可能性もあるが、詳細は不明である。
6	タカハヤ			●	●				NT	本種の主要な生息場所は上流域の小規模な溪流で、中流的な景観の場所には少ないとされる。現地調査の対象とした池田ダムより下流の本川域では生息数は少ないものと思われる。
7	モツゴ	●	●	●	●				AN	確認地点は多く広く分布しているが、淵や水際の植物帯等の緩流域に生息しており、生息を脅かす各種要因が増加傾向にある。
8	タモロコ			●	●				NT	本種の分布は旧吉野川水系と鮎喰川水系を含む吉野川水系下流域に限られるとされる。下流域では本流よりもその周辺の用水路などに多いが、中流域での生息状況は不明である。
9	イトモロコ			●					AN	中流～下流域の砂底や砂礫底の場所に生息しているものと思われるが、今回の現地調査では確認できなかった。移入により分布域を広げている一方、在来分布域では減少傾向にあるとされる。
10	コウライモロコ				●				AN	河川水辺の国勢調査では今回が初めての確認であるが、過去の調査においてスゴモロコ属の一種(Squalidus属の一種)とされているものに本種を含む可能性が高い。今回調査においても、近縁亜種のスゴモロコとの区別が困難なものについては、属までの同定にとどめている。
11	ドジョウ		●	●					VU	大河川では少なく、主に小河川や水路やため池にみられるとされ、今回調査対象とした吉野川及び旧吉野川の本川部の生息数は多くはないと思われる。
12	スジマドジョウ中型種		●	●	●				NT	これまで吉野川本川中～下流域の緩流部で記録されており、著しい減少傾向は認められていないものの、生息数は減少しているとされる。
13	アカザ	●	●	●	●			VU	VU	既往文献では柿原堰より下流でも記録されているが、個体数は少ないものと思われる。岩津橋より上流では、第1回(1991)の調査から継続して確認しており、比較的安定している。ただし、生息数は減少傾向にあるとされる。


表Ⅲ. 2. 1 (2) 重要種の確認状況と評価 (H18 魚類調査)


No.	種名	河川水辺の国勢調査				重要種の選定基準				評価		
		H3	H8	H13	H18	①	②	③	④			
14	シラウオ				●					VU	これまでの河川水辺の国勢調査では確認されていないが、その他の既往調査では吉野川において記録されている。	
15	メダカ		●	●	●					VU	VU	本種の主要な生息域は、本流よりは周辺の支川や水路等の緩流域であり、生息地・生息数ともまだ豊富だとされる。ただ、減少傾向にあるのは確実とされる。
16	ガンテンイシヨウジ			●	●						AN	生息環境が汽水域の一部に限定され、生息数は多くはないとされる。
17	カマキリ				●						NT	回遊魚であり、本来は河川中・上流域へ遡上するが、吉野川では多くが第十堰もしくは柿原堰の下流にとどまり、上流へ遡上できる個体はごくわずかであると思われる。今回の調査地点には本種が溜まるような場所がなく、確認は難しいと思われる。
18	ヒモハゼ			●	●						NT	吉野川での生息数は多く、四国最大級の生息地となっている。
19	カワアナゴ		●	●	●						NT	吉野川水系下流域に分布するが、生息数はあまり多くないとされる。
20	タビラクチ		●							EN	CR+EN	和歌山県以西の本州、四国、九州に散発的に分布し、泥干潟に特徴的に生息するが、生息地がきわめて限定され、生息数も少ないとされる。
21	トビハゼ		●	●	●						VU	旧吉野川と吉野川に生息するが、旧吉野川での生息数は少ないとされる。
22	ウキゴリ		●								NT	吉野川では、下流域で湧出水のあるワンドやクリークに主に生息していると思われるが、今回の現地調査では確認できなかった。
23	エドハゼ		●		●					EN	CR+EN	全国的に減少傾向が著しく、生息地が極めて限定されているとされる。
24	チクゼンハゼ		●	●	●					EN	CR+EN	生息地がきわめて限定され、全国的にも減少傾向が著しいとされる。
25	ビリンゴ		●								AN	河川河口域や汽水湖の砂泥底に生息し、吉野川河口域にも生息していると思われるが、今回の現地調査では確認できなかった。
26	マサゴハゼ				●						NT	吉野川では生息数が少なく、生息状況の詳細については明らかではない。河口域、沿岸域の開発に伴い生息地の多くが将来的に失われるおそれがあるとされる。
27	スジハゼ (スジハゼA)				●						AN	「日本産魚類検索 第二版 全種の同定」ではスジハゼ1種のみ記載されているが、複数のタイプに分けられることが知られている。これまでの河川水辺の国勢調査では確認されていないが、その他の既往調査ではスジハゼとして吉野川において記録されている。
28	ゴクラクハゼ		●	●	●						AN	当水系では、主に汽水域～淡水域の下部で記録されているが、元々生息数は多くないとされる。移入個体群の侵入による遺伝的攪乱には注意を要する。
29	トウヨシノボリ (縞鱗型)			●	●						AN	旧来のトウヨシノボリからタイプ分けされたため、これまでトウヨシノボリ (ヨシノボリ属の一種を含む) とされていたものに本種を含んでいる可能性は高い。生息数はまだ比較的多いようである。平野部の池や沼などを中心に生息している。

卷 末 資 料

魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006

写真番号	1	
写真区分記号	s	
写真表題	ヤリタナゴ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/03	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真番号	2	
写真区分記号	s	
写真表題	カネヒラ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/03	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真番号	3	
写真区分記号	s	
写真表題	シロヘタビラ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/07	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真区分記号
 p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

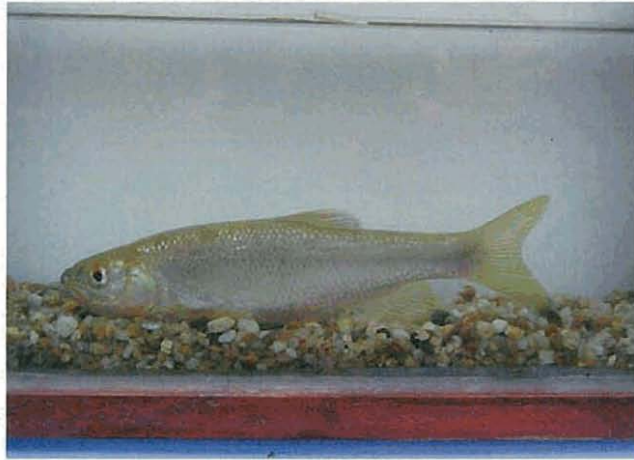
魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006

写真番号	4
写真区分記号	s
写真表題	イチモンジタナゴ
説明	重要種
撮影年月日	2006/10/03
地区番号	
地区名	
距離(km)	
ファイル名	



写真番号	5
写真区分記号	s
写真表題	ヌマムツ
説明	重要種
撮影年月日	2006/08/11
地区番号	
地区名	
距離(km)	
ファイル名	





写真番号	6
写真区分記号	s
写真表題	タカハヤ
説明	重要種
撮影年月日	2006/08/09
地区番号	
地区名	
距離(km)	
ファイル名	



写真区分記号
 p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

魚類 写真票 (重要種-外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006



写真番号	7	
写真区分記号	s	
写真表題	モンゴ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/02	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	8	
写真区分記号	s	
写真表題	タモロコ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/02	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	9	
写真区分記号	s	
写真表題	コウライモロコ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/02	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006



写真番号	10	
写真区分記号	s	
写真表題	スジシマドジョウ中型種	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/07	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	11	
写真区分記号	s	
写真表題	アカザ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/04	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	12	
写真区分記号	s	
写真表題	シラウオ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/05	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006



写真番号	13	
写真区分記号	s	
写真表題	メダカ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/04	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	14	
写真区分記号	s	
写真表題	ガンテンイシヨウジ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/08	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	15	
写真区分記号	s	
写真表題	カワアナゴ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/05	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006

写真番号	16	
写真区分記号	s	
写真表題	トビハゼ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/08	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	17	
写真区分記号	s	
写真表題	ヒモハゼ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/05	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	18	
写真区分記号	s	
写真表題	エドハゼ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/10	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		


写真区分記号
 p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006

写真番号	19	
写真区分記号	s	
写真表題	チクゼンハゼ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/10	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	20	

写真番号	20	
写真区分記号	s	
写真表題	マサゴハゼ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/08/10	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	21	



写真番号	21	
写真区分記号	s	
写真表題	スジハゼ(A)	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/06	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006

写真番号	22	
写真区分記号	s	
写真表題	ゴクラクハゼ	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/03	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	23	
写真区分記号	s	
写真表題	トウヨシノボリ(縞鱗型)	
説明	重要種	
撮影年月日	2006/10/03	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		
写真番号	24	
写真区分記号	s	
写真表題	タイリクバラタナゴ	
説明	外来種	
撮影年月日	2006/10/03	
地区番号		
地区名		
距離(km)		
ファイル名		

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

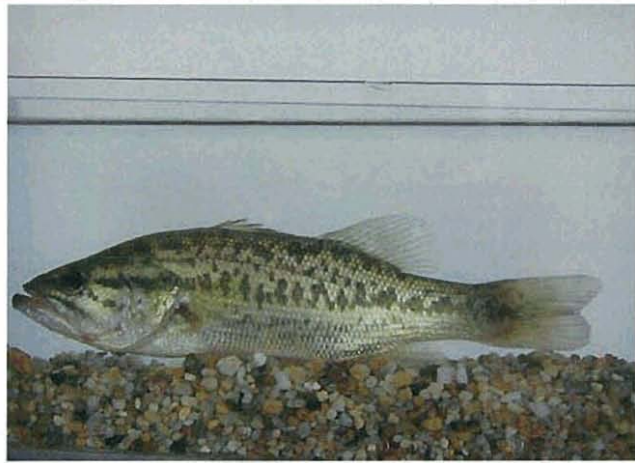
魚類 写真票 (重要種・外来種)

地方整備局等	事務所等	水系名	河川名	調査年度
四国地方整備局	徳島河川国道事務所	吉野川	吉野川	2006

写真番号	25
写真区分記号	s
写真表題	ブルーギル
説明	外来種
撮影年月日	2006/08/07
地区番号	
地区名	
距離(km)	
ファイル名	



写真番号	26
写真区分記号	s
写真表題	オオクチバス(ブラックバス)
説明	外来種
撮影年月日	2006/10/02
地区番号	
地区名	
距離(km)	
ファイル名	



写真番号	27
写真区分記号	s
写真表題	カムルチー
説明	外来種
撮影年月日	2006/08/11
地区番号	
地区名	
距離(km)	
ファイル名	



写真区分記号
 p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他